

**製品名: ATG5(3C7)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM07298**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,IP 1:50-1:200
分子量	55kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ATG5
別名	Autophagy protein 5 (APG5-like) (Apoptosis-specific protein)
遺伝子 ID	9494.0
SwissProt ID	Q9H1Y0
免疫原	ATG5 の組み換えタンパク質

**背景**

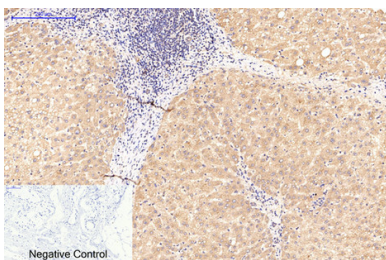
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、オートファジータンパク質 12 と結合して、ユビキチン様結合システムにおいて E1 様活性化酵素として機能する。コードされるタンパク質は、オートファジー小胞の形成、酸化損傷後のミトコンドリア品質管理、自

然抗ウイルス免疫応答の負の調節、リンパ球の発達と増殖、MHC II 抗原提示、脂肪細胞の分化、アポトーシスなど、いくつかの細胞プロセスに関与している。この遺伝子には、異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2015年9月]、機能: おそらく改変された細胞骨格内で、アポトーシス過程において重要な役割を果たす可能性がある。その発現は、アポトーシス過程の比較的後期のイベントであり、カスパーゼ活性の下流で起こる。、機能: オートファジーに必須。ATG12 と結合し、隔離膜と会合してカップ型の隔離膜とオートファゴソームを形成する。この複合体は、オートファゴソーム形成が完了する直前または直後に膜から剥離する。、誘導: アポトーシス刺激による。、翻訳後修飾: オートファジーに必須である ATG12 に結合するが、隔離膜との会合には必須ではない。、類似性: ATG5 ファミリーに属する。、細胞内局在: 非筋アクチンと共局在する。、組織特異性: 遍在性。 mRNA は生細胞とアポトーシス細胞で同程度に存在するが、タンパク質はアポトーシス細胞で著しく高発現する。、

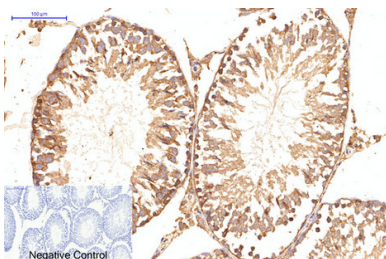
## 研究分野

オートファジーの制御;RIG-I 様受容体;

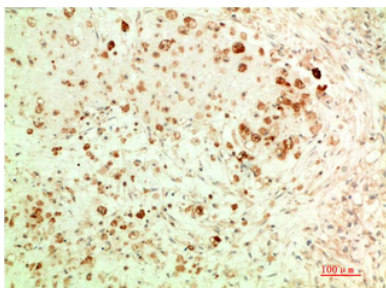
## 画像データ



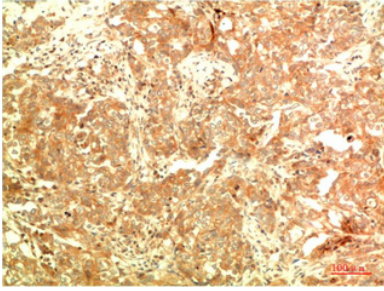
パラフィン包埋ヒト乳房組織の免疫組織化学染色。1. ATG5 マウスモノクローナル抗体 (3C7) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



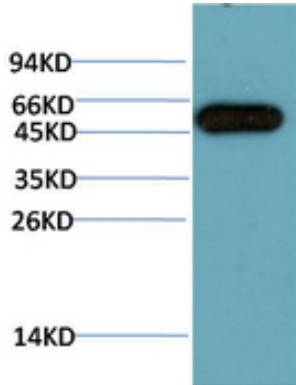
パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学染色。1. ATG5 マウスモノクローナル抗体 (3C7) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1:200 に希釈した ATG5 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト卵巣癌組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した ATG5 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学分析。



1:10000 に希釈した ATG5 マウス mAb を用いた HeLa 細胞溶解液のウェスタンブロット分析